



日本水準原点の水晶目盛板を見学する様子

CONTENTS

1. 佐々木国土交通副大臣 国土地理院を視察 2
2. 「測量の日」関連行事を実施
 - 「日本水準原点」等の一般公開 3
 - 近畿地方で「測量の日」記念フェア2026を開催 4
3. 地理空間情報を活用した取組を募集！優秀者は表彰します！
～「Geo アクティビティコンテスト」作品募集中～ 5
4. インド(ニューデリー)で開催された地理空間情報管理に関する国際会議等に参加 6
5. 第251回地震予知連絡会の開催概要 7
6. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 9
7. 5月の報道発表・7月の主な行事予定 9

「地図と測量の科学館」は
開館 30 周年を迎えます！



佐々木国土交通副大臣 国土地理院を視察

さ さ き はじめ

佐々木 紀 国土交通副大臣が、令和8年5月25日に国土地理院を視察されました。

河瀬院長から当院の所掌業務や施策全般についてご説明した後、電子基準点や測量用航空機「くにかぜ初号機」などの各施設等を視察されました。

はじめに、地球ひろばにて「電子基準点」を視察されました。全国約 1,300 か所に設置され、24 時間 365 日観測を行っており、測量や地殻変動の監視のほか、様々な用途に広く利用されていることをご説明しました。



「電子基準点」の説明を受けられる佐々木副大臣

次に、測量用航空機「くにかぜ初号機」を視察されました。くにかぜの役割やその運用についてご説明し、機体の内部までご覧になりました。



「くにかぜ初号機」の説明を受けられる佐々木副大臣

「日本列島球体模型」では、地球の丸さや日本の領域の広さを体感されました。

また、我が国の領土の明示・保全のため、離島の基準点整備・維持管理を行っていることをご説明しました。



「日本列島球体模型」で説明を受けられる佐々木副大臣

続けて、「地図と測量の科学館」内において、図化機の実演を交えながら地図の作成工程をご説明し、ウェブ地図「地理院地図」や各種主題図をご紹介しました。主題図については、地形を形態・成り立ち・性質などに区分した地形分類図や能登半島地震の災害現況図等をご説明しました。



能登半島周辺の地形図を確認される佐々木副大臣

最後に、国土地理院が所蔵する古地図をご覧になりました。

視察全般を通じて、国土地理院の業務や施策について質問や意見を交えつつ、担当者から説明を受けられ、視察を終えられました。

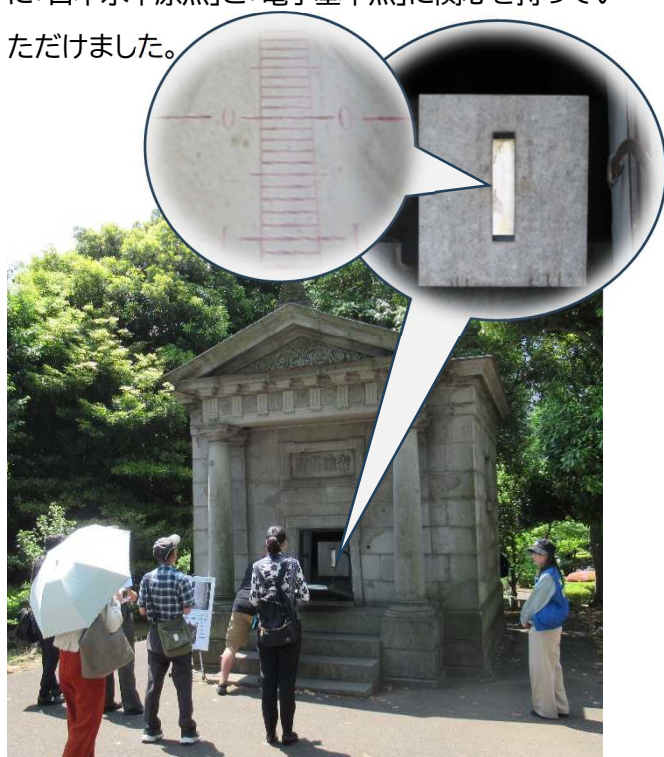
(総務部・企画部)

「測量の日」関連行事を実施

● 「日本水準原点」等の一般公開

関東地方測量部では5月20日、「測量の日」関連行事の一つとして、国会前庭北地区にある「日本水準原点」と「電子基準点(東京千代田)」を一般に公開しました。

「日本水準原点」は、我が国の土地の高さの基準になっており、毎年6月3日の「測量の日」を目前に控えた5月下旬に一般公開を行っています。今年も天候に恵まれて、約700人の見学者があり、多くの方に「日本水準原点」と「電子基準点」に関心を持っていただけました。



日本水準原点の水晶目盛板を見学する様子

当日は、測量・地図愛好家のほか、地理を学んでいる高校生や大学生、海外からの留学生、測量・土木・建築・情報処理関係の方など幅広い層の皆様にご参加いただきました。

本公開では、普段見ることができない「日本水準原点」を収容する建物(日本水準原点標庫)の内部を開放し、二つの台石とそれらを支える基礎柱、標高の基準となる目盛りが刻まれた水晶板を直接見学していただくとともに、「日本水準原点」設置当時の標庫周辺の写真、位置図、構造図、水準測量の解説などのパネルも展示しました。また、今年は「日本水準

原点」の正面に水準儀を設置し、「日本水準原点」の水晶板と附属水準点「甲」上に設置した水準標尺を観測できるようにし、見学者に水準測量がどのように行われているかを体験していただきました。



水準儀で水晶目盛板を観測する様子

公開時間前から見学者が集まり、準備中のパネルや標庫の中を覗き込む人や水準測量の原理等について質問を重ねる方など熱心な見学者もおられました。見学者からは、「水準儀を通して見ると水晶板の印象が違いました」「標高を求めるのに重力が関係しているのを知って感心しました」などの声が寄せられました。

また、「日本水準原点」の近傍に設置している「電子基準点(東京千代田)」の内部を公開しました。電子基準点の内部構造、役割や重要性を説明するとともに、標高の測量における衛星測位の役割の変遷や「日本水準原点」との関係を説明し、見学者の興味を引いていました。

たくさんの方のご来場に感謝申し上げるとともに、今後も引き続き測量・地図について理解を広める取組を進めてまいります。

(関東地方測量部)

「測量の日」関連行事を実施

●近畿地方で「測量の日」記念フェア2026を開催

6月1日、大阪合同庁舎第4号館(大阪市中心部)において、近畿地方測量部を含む5団体の主催で「測量の日」記念フェア2026を開催し206名の皆様に参加いただきました。

「測量の日」記念フェア2026において、近畿地方測量技術発表会とパネル展、測量機器・システム展を実施しました。

今回で28回目となる近畿地方測量技術発表会では、最新の測量技術やトピック等について、6課題の発表が行われました。



近畿地方測量技術発表会の様子

国土地理院からは、総務部の^{まえざわさとし}前澤 智 政策課長から「測量法及び関係政省令の改正」というテーマで、改正に至る経緯や測量業務担い手の確保に関する取組について、測地部の^{わかすぎたかひろ}若杉 貴浩 宇宙測地課長から「衛星SARによる上下変動測量マニュアル」というテーマでSARの地盤沈下調査への活用について説明しました。民間企業等からは、(株)パスコ^{いくま あきこ}生熊 亜希子氏から「空家と空間情報」、大阪土地家屋調査士会 ^{なかやまたけひこ}中山 武彦氏から「測量士×土地家屋調査士でつくる正確な境界」、(株)かんこう^{こくりょうのぶゆき}國領 伸行氏から「測量データを「空間情報」として活かす ～測量技術者が見出した新たな視点と可能性～」^{にしがわけいいち}、システムリサーチ 西川 啓一氏から「測位衛星の現状(測地成果2024対応を含めて)」のテーマで講演いただき、参加者はそれぞれの講演を熱心に聴講されていました。

参加者アンケートでは、「測量法改正の背景や現在の国土地理院の取組について学ぶことができた。」「普段の業務で関わらない情報を得ることが

できた。」などの回答をいただきました。

パネル展、測量機器・システム展では、近畿地方測量部を含む11機関の展示が行われました。

近畿地方測量部からは、防災情報、自然災害伝承碑など国土地理院の取り組みを紹介するパネル展示を行いました。



国土地理院のパネル展示

その他の機関では、最新の測量機器の展示や測量技術についての紹介が行われました。参加者は、SLAMや3Dスキャナなどを展示している担当者からの説明や実演を見ることで、より新技術への関心を高めたようでした。



最新の測量機器の展示

近畿地方測量部では今後も「測量の日」関連行事として、測量・地図等の普及啓発のために本取組を継続してまいります。
(近畿地方測量部)

地理空間情報を活用した取組を募集！優秀者は表彰します！
～「Geoアクティビティコンテスト」作品募集中～

今年度も地理空間情報を活用した優秀な取組を表彰する「Geoアクティビティコンテスト」を開催します。ユニークなアプリ、新たなサービス等を9月9日(水)まで募集します。

「Geoアクティビティコンテスト」は、地理空間情報を活用した魅力的な取組、ユニークなアプリ、新たなサービス、画期的な技術等について、表彰を行う国土地理院主催のイベントです。2012年度に初めて開催し、今回で15回目の開催となります。来場者や参加者との交流を通じて、次世代の地理空間社会を担う人材の育成、優良事例の普及、新しいサービスの創出など地理空間情報の活用促進を目的としています。

今回の開催では、教育機関に在籍する方を対象とした「生徒・学生部門」とNPO法人、地域サークル、その他企業、団体や個人の「一般

部門」に分け、新たに「次世代ルーキー賞」を新設し表彰いたします。また、応募を前提として、希望者には3次元電子国土基本図のサンプルデータを貸与することが可能です。

地理空間情報を活用した取組の優れた作品の応募者には、G空間EXPO2027会場での展示やプレゼンテーションをしていただきます。

皆様の作品を多くの方に紹介するとともに、ほかの参加者・来場者との交流をする絶好の機会です。

多くのご応募をお待ちしております。

応募方法

webサイト(<https://www.gsi.go.jp/chirikukan/chirikukan41052.html>)にある募集要項をご確認の上、応募用紙に必要事項をご記入いただき、電子メール又は郵送でご応募ください。

応募締切

令和8年9月9日(水)17時【必着】

お問合せ

Geoアクティビティコンテスト事務局
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
国土地理院 防災・地理空間情報企画センター
地理空間情報企画課

Tel : 03-3508-4614

E-Mail: gsi-g-kukan8=gxb.mlit.go.jp(=を@に変えてください)



webサイト



2025年度の
受賞作品



前回の発表の様子



前回の表彰式

Geoアクティビティコンテスト事務局では、今年もInstagram等を活用し情報発信をしていきます。ぜひフォローをお願いします。

 Instagram

 @geo_contest



(防災・地理空間情報企画センター)

インド(ニューデリー)で開催された地理空間情報管理に関する国際会議等に参加

4月27日及び28日に、インド・ニューデリーで開催された地理空間情報管理に関する国際会議及びセミナーに参加しましたので、その様子を報告します。

■アジア太平洋の国々が集まる国際会議

今回国土地理院が参加したのは、「国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会(UN-GGIM-AP)理事会」です。「国連地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会(UN-GGIM)」の5つの地域委員会の1つで、日本は2012年の設立から会長等の理事会メンバーを務めていて、現在は理事国として参加しています。

今回の理事会には、日本から飯田 洋^{いいた ひろ}基本図情報部長、宮原 伐折羅^{みやはら ぼさ}測地観測センター長、宮下 妙香^{みやした たあか}企画部国際課長、竹崎 宗一郎^{たけさき そういちろう}地理空間情報部情報サービス課地図成果係長の4名が参加しました。会議では、作業部会の活動の進捗状況や9月下旬に開催される総会の準備状況についての報告がありました。飯田部長が理事として議論に参加すると共に、宮原センター長が、測地基準座標系作業部会(WG1)の部会長として活動報告を行いました。



理事会の様子

■各国の事例共有等を行うセミナー

統合的地理空間情報フレームワークの実装などを通じて地理空間情報の効果的な利活用を支援すること等を目的としたセミナーが開催され、各国における事例などが共有されました。

国土地理院からは、宮原センター長が、測地基準座標系の社会基盤としての価値と役割について日

本での事例を紹介する招待講演をしました。



宮原センター長による招待講演

■メンバー国との関係構築

各国の代表者とよりよい関係を構築・維持するため、日本から参加した4名は、会議の期間中に他国の参加者と様々な意見交換を行いました。お互いの発表から学ぶと共に今後の理事会開催などUN-GGIM-APのこれからの活動に関して議論を行いました。



共同議長等と日本からの参加者の集合写真

本会合の情報は、UN-GGIM-APのWebページで公開されており、関連ドキュメント等を参照することが可能です。

<https://un-ggim-ap.org/meeting/eb-meeting-new-delhi>

(企画部、地理空間情報部、基本図情報部、測地観測センター)

第251回地震予知連絡会の開催概要

5月21日に関東地方測量部において第251回地震予知連絡会がオンライン会議併用形式にて開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告のほか、重点検討課題に関する報告・議論が行われました。



第251回地震予知連絡会の様子（オンライン併用）

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「情報科学を活用した地震調査研究」を課題として、以下の①～⑤の報告がありました。

① 情報科学を活用した地震調査研究 – 背景と現況 –

近年のAIをはじめとする情報科学技術の発展に伴い、2018年頃から世界的に急速に拡大してきた「情報×地震」が分野として確立しつつあります。JST CREST^{※1}（2017～2022年度）や文科省STAR-Eプロジェクト^{※2}（2021～2025年度）といった大型プロジェクトにより、情報科学を活用した地震調査研究が大きく進展しました。STAR-Eプロジェクトの後継として、文科省STAR-E NEXTプロジェクト（2026～2030年度）が発足し、これまでの「情報×地震」手法群のさらなる深化と応用展開の拡大を目指しています。

② データの不完全性に対応した大地震後の地震活動および地震動ハザードの準リアルタイム時空間予測に関する研究開発

大地震直後の余震地震動ハザード情報作成に向けて、地震データの不完全性に対応した地震活動およびそれに伴う揺れの準リアルタイムの時空間予測に関する研究開発を行いました。研究では地震カタログに基づくアプローチと地震動データに基づくアプローチにより、予測スキームを確立するとともに、内陸地震（2016年熊本地震）の実記録を用いた検証を実施しました。また両アプローチの統合に向けた基礎的な検討を行い、試験的な情報

統合により、短期的余震ハザード予測を大きく進展させることができました。

③ 情報科学を用いたスロースリップ検出と断層すべりモニタリングの高度化

GNSSの観測記録のみから、時系列の線形トレンドの変曲点に基づく短期的スロースリップの検出手法を開発し、未知のスロースリップの検出に成功しました。一方、地震動検出のような深層学習を用いた短期的スロースリップ検出の試みとして、単観測点を用いた場合の学習器を構築し、各点に順次適用することでスロースリップ検出の可能性を評価しました。また、物理情報深層学習(PINN)を用いた断層摩擦特性推定方法を開発し、豊後水道スロースリップ発生域の摩擦特性推定と地殻変動データを定量的に再現することに成功しました。また、構築したモデルに基づく予測では、豊後水道スロースリップの5～6年周期での繰り返しが再現できていることが確認できました。

④ 物理情報深層学習を活用した南海トラフ域震源決定システム・地下構造アンサンブル推定手法の開発

プレート沈み込み帯における地震活動を正確に把握するには、複雑な地下構造を反映した3次元速度構造モデルが必要であるが、3次元モデルは「作る」のも「震源決定に使う」のも計算量・データ量の多大な負担が必要でした。本研究では、物理情報深層学習(PINN)により、3次元速度構造モデルを「作る」技術と「震源決定に使う」技術の双方を高度化し、高速・軽量の震源決定と地下構造の信頼性評価を実現しました。具体的には、3次元速度構

造を「活用する」技術として、南海トラフ域の震源決定システム(HypoNet Nankai)を開発し、従来法と整合的な震源決定を、1震源あたり数秒で可能にしました。また、3次元速度構造を「作り、信頼性を評価する」技術として、PINNとアンサンブル推定を組み合わせた不確実性定量化付き走時トモグラフィ手法を開発し、紀伊半島沖での実地震データに適用しました。さらに、ニューラルネットワークによる速度構造表現により、多数の3次元速度構造モデルを軽量に扱えるようになり、地下構造の不確実性を実用的に評価できるようになりました。本研究は、南海トラフ域における震源決定の高度化、地下構造モデルの信頼性評価、地震活動把握の精度向上に資する基盤技術となります。

⑤ 深層生成モデルを用いた地震ハザード評価ー現状と展望ー

深層生成モデルの一種である敵対的生成ネットワーク(GAN)を用いて、耐震性能評価に必要な地震動の加速度時刻歴波形を直接生成する、新たな地震動評価手法を構築しました。具体的には、日本国内の強震観測データ(全国強震観測網K-NET)を学習データとし、地殻内地震を対象に地震規模・断層最短距離・地盤条件を考慮した地震動波形を

生成しました。さらに、構築した地震動評価手法を活用した確率論的地震ハザード評価(PSHA)手法を実現しました。これにより、従来の応答スペクトル中心の評価を拡張した新たな確率論的地震ハザード評価が可能であることを示しました。提案手法により、建造物の地震応答解析へ生成波形を直接活用できる可能性を示し、より高度な耐震性能評価の実現が期待されます。防災科研を中心に進む地震観測記録・メタデータ基盤の整備をさらに拡張し、将来的には全国規模の波形データ基盤を構築することで、上記を含めた次世代の地震ハザード評価への展開が期待されます。

○次回の会議開催予定

第252回地震予知連絡会は、8月28日(金)に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「昭和南海地震から80年～南海トラフ地震に向けた調査観測研究の現状～」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>

(地理地殻活動研究センター)

※1 国立情報学研究所「JST 戦略的創造研究推進事業(CREST: Core Research for Evolutionary Science and Technology)」

※2 文部科学省「情報科学を活用した地震調査研究プロジェクト」(STAR-E (Seismology Toward Research innovation with data of Earthquake) プロジェクト)

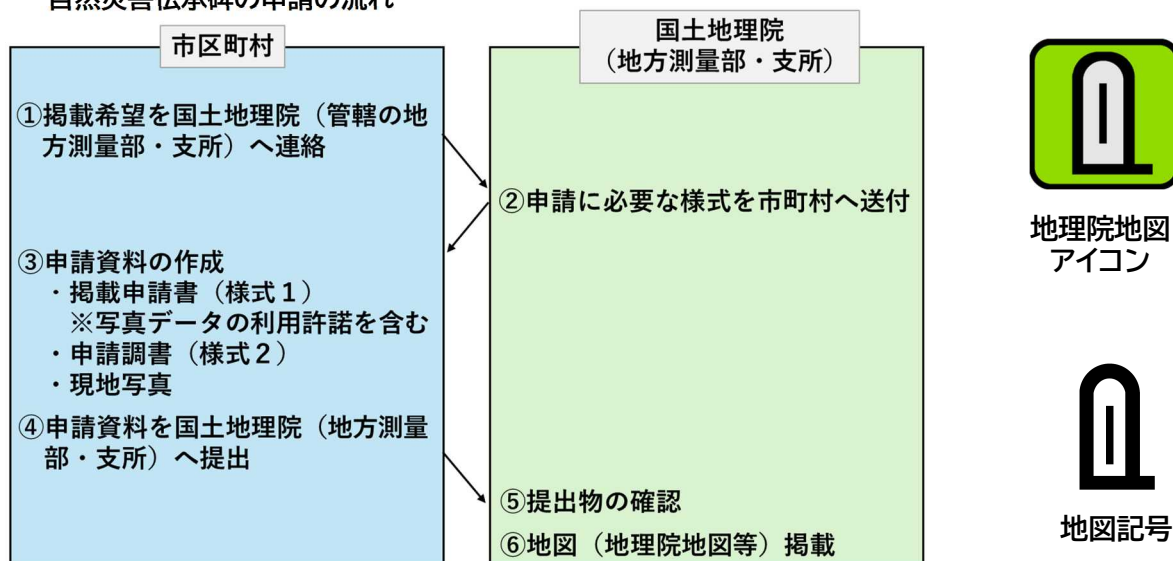
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和8年6月25日現在

47	都道府県	683	市区町村	2451	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は以下のページをご覧ください。

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html

○5月の報道発表

発表日	件名	担当部署
13日	6月3日は「測量の日」です～地図と測量に関する行事を全国で実施～	総務部
13日	日本水準原点を一般に公開します～	関東地方測量部
13日	令和8年4月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
21日	火山土地条件図「恵山」「鶴見岳・伽藍岳」を公開～地形から読み解く火山防災のヒント～	応用地理部
21日	「ジオAI 研究会」(第4回)を開催します～これまでの研究会を踏まえた中間整理案について議論します～	防災・地理空間情報企画センター
22日	国土地理院所蔵の古地図を展示します～地図と測量の科学館 開館30周年事業～	総務部
22日	2026「測量の日」特別企画を開催	総務部
22日	「測量の日」関連行事を開催～第29回 中国地区測量技術講演会～	中国地方測量部
28日	「測量の日」の関連行事のお知らせ～パネル展と出前講座を実施します～	沖縄支所
29日	「ジオAI 研究会 中間整理」を公表します！～地理空間情報×AIの融合の推進に向けて～	防災・地理空間情報企画センター

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2026年 報道発表資料一覧

(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2026.html>)をご覧ください。

○7月の主な行事予定

月日	行事
7月中旬～9月下旬	地図と測量の科学館 企画展「昭和100年」

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441



連絡先:総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>